

ADVERTISING FEATURE

編集特集「オフィス」連動 広告企画

オフィス最前線 2025 冬

オフィスやワークプレイスの進化するスピードがますます速くなっています。

多様化する社会の縮図のように、

さまざまな実証実験が行われるトライアル型オフィスが増え、

そこで生まれた知見を元に、魅力的な空間や製品が生み出されています。

本企画では、さまざまな働く場の事例紹介に加え、

そうした場に用いられる製品やサービスなどを紹介します。

※価格は税込金額です。

※掲載製品に対する資料請求は、
ネットからご請求いただくと早くて便利です。
<https://www.shotenkenchiku.com>
「コンテンツ」→「メーカーカタログ請求」
※挟み込みの資料請求ハガキからも
ご請求いただけます。



※ウェブメディア「id+」でも
記事をご覧くださいませ。
<https://www.shotenkenchiku-plus.com/>



INDEX

【オフィス事例】

| | |
|---------|-----------|
| 内田洋行 | 204 ~ 205 |
| デザインアーク | 206 ~ 207 |
| ポーコンセプト | 208 ~ 209 |

【PICK UP PRODUCTS】

| | |
|---------------------|-----|
| パナソニック エレクトリックワークス社 | 211 |
| ENEN | 212 |

「第二の創業」を働き方から描くオフィスデザイン

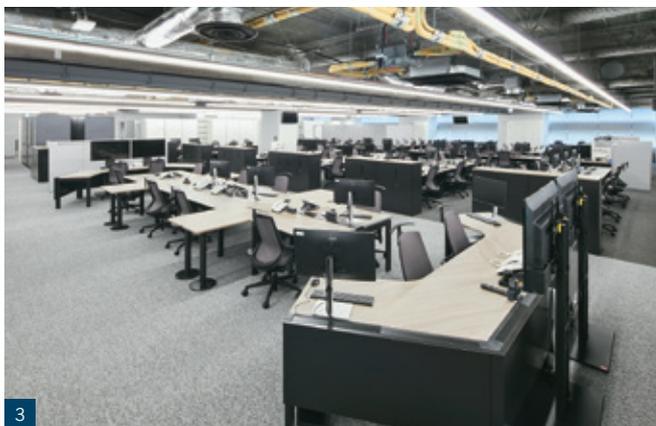
内田洋行 ー北海道新聞社ー



1



2



3

IT商社の内田洋行は、ICTとデータを活用し、オフィス・教育・公共空間など多様な領域で、人と場の関係を再構築している。空間構築の知見とテクノロジーを融合させ、働く場と学ぶ場の快適性と創造性を高めている。

組織の壁を越え、新たな価値を生み出す

北海道新聞社は本社移転を「第二の創業」と位置づけ、変革と挑戦を掲げた働き方改革プロジェクトを推進した。単なる物理的な移転ではなく、組織文化や働き方そのものの変革を伴うことを目指した。その実現に向け、内田洋行はオフィス構築のパートナーとして、コ

ンサルティングから空間設計、プロジェクトマネジメントまでを包括的に支援した。

空間デザインには、新聞社ならではのテーマ性を随所に取り入れた。例えば、各階には新聞の歴史的なフォントをサインとして使い分け、視覚的にも新聞文化を感じられる工夫が施されている。作業エリアはグレースケールで統一され、協働スペースにはカラーを用いて新聞紙面を連想させる配色を採用。壁には地域の歴史にちなんだレンガの粉体塗装が施され、ファサードは新聞のレイアウトを想起させるデザインを採用し、新聞社としてのアイデンティティを体現している。

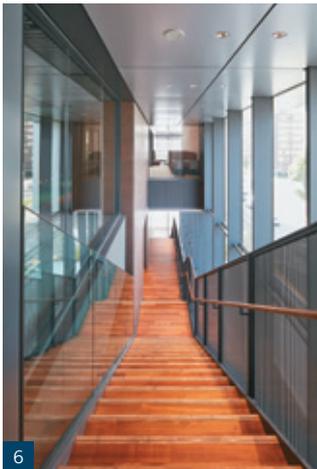


4

- 1 /フロアごとに意匠やカラーリングを変えた「3C Zone」。執務エリア前の共用部に配置し、業務、打ち合わせ、休憩など多目的に使える
- 2 / 新聞紙面のレイアウトをイメージしたファサード。ガラス窓越しに、階段を行き来する社員の動きが街中に現れ、活気あるオフィスの雰囲気が伝わる
- 3 / 「boulevard」をコンセプトに、部署間を隔てる壁を無くしたフリーアドレスをベースとした執務エリア。中央に大通を模した通路を貫通させ、社員同士の接触機会を増やした
- 4 / 執務エリア内に設けた、自律的な働き方を促すフリーエリア。インテリアのベースとなる濃淡のあるグレーに調和するように、各階ごとにサインのフォントとカラーを設定した
- 5 / 建物1階に設けた、最大200名を収容可能な交流スペース「DO-BOX EAST」。社内イベントだけでなく、地域住民も利用できる場として、マルシェやセミナーが開催され、新たな交流の場として活用される
- 6 / 大通に面した階段室。「3C Zone」にもアクセスしやすく、ガラス越しに明るい日差しが降り注ぐ空間のため、積極的に階段での移動を選択する社員が増え、健康増進にも役立っている



5



6

北海道新聞社
 床面積 / 8,500㎡
 施設利用者数 / 760名(グループ会社除く)
 工期 / 2023年1月～2024年10月
 竣工 / 2024年10月

新オフィスのフロアデザインコンセプトは「boulevard (ブールバード)」。札幌の象徴である大通公園をモチーフに、オフィス全体を“街”に見立て、中央に人や情報が行き交う「大通」を配置。その両側に多様な機能を持つスペースを展開することで、組織の縦割り構造を打破し、部門横断的なコミュニケーションとコラボレーションを促進する構成となっている。

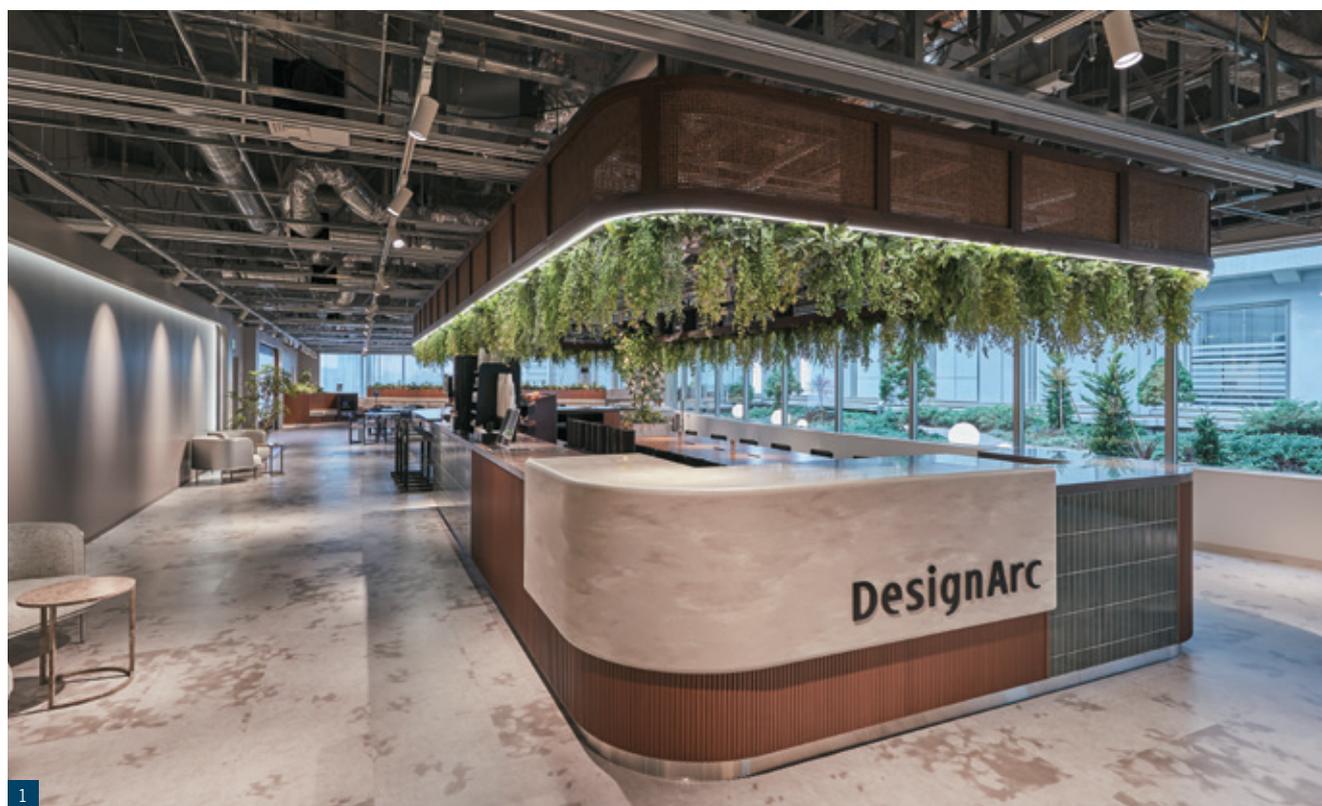
執務エリアは、従来の個室型から一新し、壁や仕切りを極力排除したオープンオフィスを採用。ABW(アクティビティ・ベースド・ワーキング)の考え方を取り入れ、業務内容に応じて最適な場所を選ぶよう、多様なワークスペースが用意された。これにより、柔軟で自律的な働き方が可能となり、新聞制作の中核である「ニュースエディター席」もオフィス中央に配置され、情報の集約と迅速な意思決定を支えている。各階には「3C Zone」と名付けられた多目的スペースが設けられ、フロアごとに異なるテーマカラーとデザインで、

来客対応や社員同士のリフレッシュ・対話の場として機能している。さらに、内田洋行が得意とするICT技術も空間全体に導入されており、業務の効率化と快適なコミュニケーションを支える仕組みが整備されている。使いやすいAVコントロールシステムや、ウェブ会議設備、集音性に優れた天井埋め込みマイクなどが設置され、ハイブリッドな働き方にも対応した環境を実現した。

本社1階には最大200名を収容可能な交流スペース「DO-BOX EAST」を設置。地域住民や団体が利用できる場として、新聞社の社会的役割を体現する空間となっている。

北海道新聞社の新オフィスは、社員の主体性を尊重しながら、社内外の交流と情報の流れを加速させる設計が随所に施されており、内田洋行の空間デザイン力とコンサルティング力が結実した好例と言える。

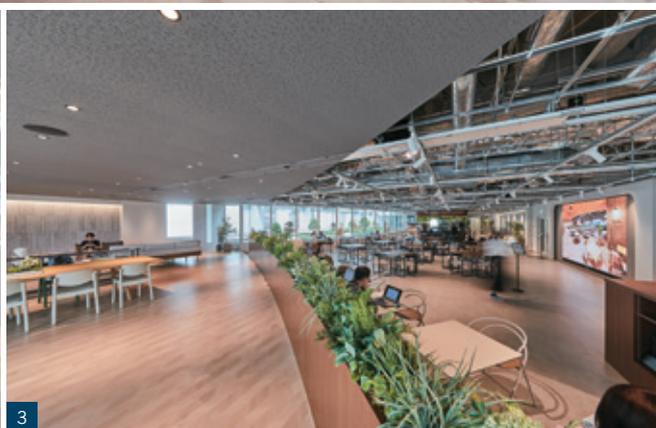
働く者たちが自らつくりあげたワーカーズ・ファーストのオフィス デザインアーク —東京本社・本店オフィス—



1



2



3

施設空間のプランニング・設計・施工のスペースソリューション事業、暮らしの空間を中心にインテリアコーディネートを行うインテリア事業、建材製品の開発・製造販売の建材事業、仮設事務所向けに備品やエアコン等を貸し出すレンタル事業の4つの事業を展開し、デザインを軸に人と空間を繋ぐ架け橋となる企業を目指すデザインアーク。同社では、2025年11月4日、「東京本社・本店オフィス」をリニューアルオープンさせた。オフィスづくりも主要事業とするデザインアークが自ら手掛けた、この新たなオフィスを紹介する。

3フロアのオフィス空間を貫く“創造の大樹”

リニューアルは、これまで大和ハウス九段ビルの11階と12階の2

フロアであった東京オフィスに10階の半フロアを増床。デザインアークの新たな「東京本社・本店オフィス」づくりとして行われた。プロジェクトは2023年12月、全社員が活躍する夢のある職場を実現し続けるという目的の下、30代までの若手社員のためのチームを充足させることから始まった。チームはまず、多様なワークスペースにより業務効率を最大化させる環境整備、やりがいと働きやすさを掛け合わせて持続的な成長を促す働きがい、そして、付加価値創出のための事業部門連携の3つの課題と対策を抽出。その後、ワークショップを繰り返し、新たなオフィスのトータルコンセプトである“4th place”を導き出した。

4th placeは、ABW+固定席による運用や社員の位置情報システム

DesignArc

 Daiwa House Group®

1 / “みせる樹冠”の12階フロア。あえてスケルトンにした天井と中庭を臨む大きなガラス窓により、オフィスは外部空間へと広がっていく

2 / 12階の細長いコの字型をしたカフェカウンター内部にも席が設けられ、ここはコミュニケーションと共に執務の場にもなっている

3 / リビングとダイニングを擁した12階の小上がりスペース。オリジナルの家具やイタリア・トスカーナの石材ブランド、Salvatoriの石壁がラグジュアリーな雰囲気を演出する

4 / 11階フロアの中央には、“4th place”のロゴを配した“創造の大樹”が聳える。広がる枝から垂れ下がるペンダント照明は木の実をイメージ。執務エリアのデスクにはby interiorsの「TEE Table」が採用されている

5 / ゲストを迎え入れ、商談を行うための12階の来客エリア。高級感とスタイリッシュさを兼ね備えた設えの会議室が並ぶ

6 / 10階のサンプルエリア。テーブルは「TEE Table」にキャスターを付けたオリジナル。窓際のキャビネットもデザインアークが得意とする造作家具で、社内規格であるA2見開きの図面が収まるように設計され、種類やプロジェクトごとに整理されている



4



5



6

デザインアーク 東京本社・本店オフィス

床面積 / 2142.15㎡

施設利用者数 / 311人

工期 / 2025年3月～2025年11月

竣工 / 2025年11月

導入などによるデザインアーク独自のワークスタイル。セミナーやレクリエーション、自己研鑽のための場の開放。オリジナル商材の導入やシンボルとなる造作物を設置する、個性を魅せるモノとコト。社員同士の部門を横断した偶発的なコミュニケーションを発生させ、新領域のモノづくり、コトづくりを行う、新しい価値を生むの4項目からなり、新オフィスでは随所にこれらが具現化されている。

オフィスは、10階から12階までの3フロアを、4th placeに根付く“創造の大樹”が貫くようにデザインされており、各フロアにも、それぞれデザインコンセプトが設けられている。

地面を想起させる茶やグレーの色調で纏められた10階は、新たな発想が根付く“たかまる根”。設計部門の社員が多く、個室ブースや社内打ち合わせブースの他、サンプルや図面などを広げてチーム作業ができるサンプルエリアも用意。

主に営業部門が集まる11階は、生み出されたものが事業の成功を目指し活性化させていく“つなぐ幹”。ABWエリアと固定席エリア、オープンなミーティングができるマグネットエリアなどが配され、インテリアも中央に据えられた大樹の幹を模した柱、広がる枝をイメージした天井造作、木陰を表現した床のタイルカーペットなど、コンセプトに沿って纏められている。

オフィスの顔となる12階は、“みせる樹冠”。コーヒーマシンが置かれたカフェカウンター、ゲストを迎えるレセプションエリア、商談や機密性の高い会議用の個室が並ぶ来客エリア、壁面に大型LEDビジョンを設えた執務+イベントエリアの他、天井高を住宅仕様の2400mmにした小上がりエリアも設置。この小上がりエリアは、就業時間後、資格取得に向けた勉強など、社員の自己研鑽の場としても開放されている。また、12階もカウンター上部から吊るされた緑や、木漏れ日をイメージした床の塩ビタイルなどにより、大樹の葉が生い茂る様がデザインで表現されている。

モバイルモニターとモバイルバッテリーにより、社員はすべてのフロアでの執務が可能。この他、位置情報システム、Beacappによる情報収集分析。会議システム、MAXHUBによるペーパーレス化。デジタルサイネージによるコミュニケーション活性化や事業部間の連携強化など、東京本社・本店オフィスには、最新のオフィスソリューションも導入されている。

デザインアークのオフィスづくりは、ここで働く者を第一義に構築されている。このワーカーズ・ファーストの東京本社・本店オフィスは、今後も実用と検証を重ね、進化していくという。

ワークスペースの存在価値を創出する“ヒュッゲ”を体現した空間

BoConcept



デンマークで1952年に創立されたボーコンセプトは、ソファやチェア、テーブルなどのハイエンドな家具や照明などを取り扱う世界的なブランドとして知られる。世界65カ国で展開されるそのプロダクトは、モダンなデザインと共に、さまざまな空間に調和しながらインテリアの付加価値となるような親しみやすさと存在感を持つ。同社では、エンドユーザーに上質な家具を提供する一方、近年は、企業のオフィスなど法人向けのニーズも高まっている。コロナ禍以降、在宅ワークが社会に浸透すると同時に、オフィスの存在意義が問われ、足を運ぶ理由が生まれるワークスペースづくりにおいてボーコンセプトの家具と空間への視点が注目されている。その動きに呼応し、東京・青山に続いて、2025年10月には関西圏で初となる法

人営業を主とするライブオフィス「ボーコンセプト 大阪ライブオフィス」を開設した。

「大阪駅周辺を中心に大型の都市開発が進むエリアにおいて、オフィスの開業・移転などが増えていくことを見据え、その空間づくりに携わる設計者や施主の方々に、当社の家具やデザインの理念を体感してもらえる場としてこのライブオフィスが生まれました」と法人営業部の米倉慎二氏は話す。このオフィス兼ショールームには、ミーティングルーム、ビッグテーブルやソファのあるワークスペース、さらに中央にはオープン型のバーカウンターが設けられている。ここで提案されるのは同社の本拠地である北欧、デンマークの暮らしに根付く「居心地の良い空間」を意味する“Hygge（ヒュッゲ）”の思

BoConcept®

LIVE EKSTRAORDINÆR

1 / 大阪・本町のオフィス街の一角にある「ポーコンセプト 大阪本町店」と同じビル内に開設されたライブオフィス。オフィス仕様の家具を始め、“ヒュッケ”の居心地の良さを体感するワークプレイスが提案される。フロア中央にはコーヒーマシンや冷蔵庫を備えたバーカウンターがあり、またモニターを使ってカジュアルなミーティングに対応。仕事と生活空間がシームレスにつながるシーンを体感できる

2 / ライブオフィスのエントランス。同社の家具は、その美しいデザイン性からオフィスのウェルカムスペースやラウンジに導入されるケースも多い

3 / 世界的な建築家グループ・BIGとコラボレーションしたソファ「Nawabari」を始め、空間の個性を生み出しながら、機能性にも優れた家具が並ぶ

4 / ミーティングルームには、電源コード用のヒールを設けたオフィス仕様のテーブルなどが配されている

5 / ソファに座り、リビングのようにくつろぎながら仕事をするシーンも。企業のカラーや空間デザインに合わせ、張り地などを仕様変更することも可能



ポーコンセプト 大阪ライブオフィス

床面積 / 約 137.7㎡
 施設利用者数 / 4人～
 工期 / 2025年8月～9月
 竣工 / 2025年10月

想を基にした空間づくりだ。

「“ヒュッケ”が表わす、気持ちの良い空間やリラックスできる空間体験は、時に緊張感やストレスのあるワークプレイスとは真逆のものであるかもしれません。しかし、時代の変化と共に、住宅とオフィスの垣根がなくなり、働き方やワークプレイスの使い方を個人が選ぶことが当たり前になりつつある中で、オフィスを『家よりも落ち着く場所』としてデザインすることは、働く社員の生産性の向上にもつながり、リアルなオフィスの存在理由の一つになり得ます」と話す。その背景には、同社が掲げる「ワーク・ライフ・インテグレーション（仕事と生活の柔軟な融合）」という考え方がある。ポーコンセプトの家具が持つ、スカンジナビアンスタイルの洗練されたテイストは、

来訪者を迎えるラグジュアリーな場、交流や協創を生むカジュアルな場など、多様な用途の空間に調和する。一方で、同社が積み上げてきた空間づくりのノウハウに基づくレジデンシャルな使い心地、長時間使用しやすい設計は、新しいワークプレイスデザインを後押しする。同法人事業部では、家具の張り地やカラーリングの変更、オフィス仕様への特注にも対応。また、このライブオフィスでは、実際にスタッフが働いており、“ヒュッケ”を感じるシーンに出会うことができる。

居心地の良さや、対面でのコミュニケーションの促進、仕事への集中など、あらゆる働き方の起点となる、ポーコンセプトの家具と空間デザインに触れてほしい。

PICK UP PRODUCTS

建築そのものになる オフィス向け配線器具

Panasonic

パナソニックのデザイン配線器具「SO-STYLE」。特長はその製品名に込められており、「SO」には三つの意味がもたされている。一つ目は、空間の“素”地となるマット仕上げ。シボ（しわ模様）加工により、プレートだけでなく、コンセントも光沢を出さないようにマットに仕上げられ、空間へと調和する。二つ目が、“創”造性を喚起する空間を創り出す静音設計。環境省が推奨するホテル室内環境レベルに合致した32 dBの操作音を実現。耳障りな音によって、上質な空間の価値を落とすことがなく、くつろぎを保ってくれる。三つ目が、設計者の意図に“沿”ったシンプル・シャープなデザイン。存在感を抑え、空間に溶け込むためにディテールはシンプルに。建築の構成要素である水平・垂直で表現し、挿入口の座ぐりも最小化を実現。そして、“STYLE”は、設計者それぞれのスタイルに合う配線器具という意味から名付けられている。

「EXTRA」は、ラグジュアリーな空間向けの配線器具用プレートハンドル。バイブレーション仕上げによって表面をランダムに研磨し、光の反射を抑え、味わい深い風合いを演出。美しいエッジを施すことで、無垢の金属板のような格別な質感を実現。「SO-STYLE」を始めとする他のモジュールと組み合わせも可能、という三つの大きな特徴を持っている。

この他、スイッチやコンセント、調光つまみなどと組み合わせができ、シンプルでスクエアなデザインが空間に調和する「Sプレート」。カラーは「SO-STYLE」の3色+「EXTRA」の3色にベージュを加えた7色がそろう。この「Sプレート」にも組み込め、スマホやタブレット、パソコンなどの充電に対応する充電用USB-TypeCコンセントも用意するなど、パナソニックでは多様なオフィス空間にしっかりと嵌る配線器具を数多くラインアップしている。

同じ空間に存在する設備機器の一つひとつが主張することなく、サイズや質感、色味などを統一し、建築そのものになること。加えて、環境に配慮し、サーキュラーエコノミーの考え方を大事にしていこう。パナソニックは、今後もこの「Archi Design」の思想の下、新たな製品を発表し続けていく。



1 / 「SO-STYLE」のブラックを白壁にポイント使いすることで、高級感を高めてくれる。カラーは他に、ニュアンスカラーで中間色との相性が良いグレー、シンプルながら上質で洗練された空間をつくるホワイトの計3色がそろう
2 / 役員室や応接室などに使いたい「EXTRA」。石材の壁に負けない上質な質感のシルバー。真鍮の調度品と組み合わせても違和感のないゴールド。赤みを帯びたブラウンは、マホガニーやウォールナットなどの高級木材と合う
3 / 写真は「Sプレート」に、扉付接地コンセントと、2025年11月に発売したパソコン充電に対応した「充電用USB-TypeCコンセント USB PD対応 最大60W」の組み合わせ

選べる自由、広がる可能性 —ENENが支える多様な空間ニーズ



家具ブランド「ENEN(エネン)」は、“気軽に家具を楽しむ”というライフスタイルを提案する。色・サイズ・素材を自由に選べるモジュラー家具を中心に、機能性とデザイン性を兼ね備えながら、手頃な価格も魅力のひとつだ。

2022年に誕生した同ブランドは、東京・自由が丘と大阪・本町に実店舗を構える。丸みを帯びたやさしいフォルムと、暮らしに馴染むカラーリングの家具は、空間にリラックス感をもたらす。もともとは家庭向けに開発されたが、近年ではオフィスやカフェ、ホテルなど、商業空間での導入も増えている。

「KUUM(クーム)」シリーズは、テーブルや椅子、ソファ、棚などのパーツを自由に組み合わせて、色やサイズ、素材まで好みに応じてカスタマイズできるモジュラー家具。ライフスタイルの変化に合わせて形を変えられる柔軟性に加え、修理やメンテナンスのしやすさも特長だ。

例えばテーブルの場合、天板は長方形・正方形・丸型・オーバル型の形状に加え、複数の素材から選択可能。脚部も木・鉄製の素材に加え、形状や

カラーのバリエーションが豊富で、好みに応じたカスタムオーダーが楽しめる。簡易な組み立て仕様により、天板と脚は手軽に交換でき、使い方や気分に合わせてアレンジも自在だ。ソファや椅子、棚も同様にカスタムが可能で、公式サイトのカスタムシミュレーション機能を使えば、素材やパーツを選びながら完成イメージを確認できるのも便利である。分解も容易なため、移転時に搬入搬出もしやすく、長く使えるのも大きな利点である。また、「Cloud Sofa(クラウドソファ)」は、雲のような柔らかなフォルムと座り心地が印象的なENENオリジナルソファ。首元まで支えるハイバック仕様で、映画鑑賞や読書など長時間の使用でも快適な座り心地を提供する。家庭はもちろん、オフィスのロビーや休憩室、カフェなどのリラックス空間にも適している。

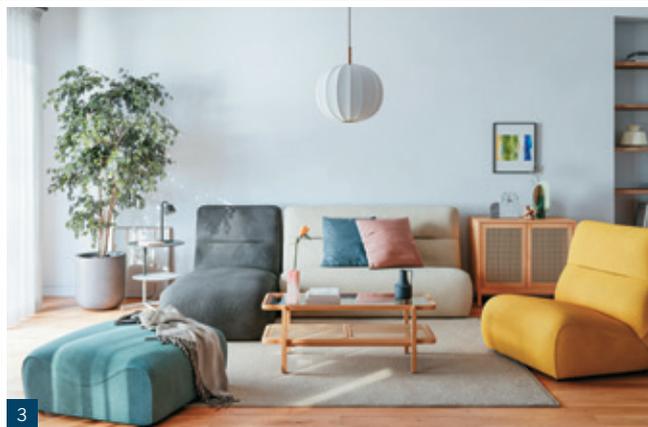
さらにENENは、親会社である店研創意との連携を生かし、法人向け販売代理にも注力する新たなビジネス戦略を展開。家庭用家具にとどまらず、オフィスや物販店など商業空間への提案力を高め、より幅広いニーズに応えるブランドとして進化を続けている。



1



2



3

1 / 「KUUM チェア」は、木材と鉄というシンプルな素材をベースに、2種類の基本デザインを組み合わせることで多彩なバリエーションを展開する。専用チェアパッドは3色展開で、気分に合わせて色を組み替える楽しみも味わえる。今後、新色とPVC仕様を追加され、選択の幅がさらに広がる予定

2 / オフィスの打ち合わせスペースに導入された「KUUMテーブル」は、2本脚の構造を採用。天板下にゆとりある空間を確保することで、足元が広く、快適な座り心地を実現

3 / 「Cloud Sofa」は、ほどよい反発感の座面はへたりにくく、耐久性にも優れる。5色のカラーバリエーションをそろえ、空間に応じたコーディネートが可能

製品紹介 ——— Product Introduction

姿勢も設えも整え、
空間に溶け込むタスクチェア

Tamot

腰部にフォーカスし、健康的な執務姿勢をサポートするエルゴノミクスデザインのタスクチェア「Tamot (タモト)」。包むシェル袖はパブリックなオフィスでもプライベートな空間を生み出す。心地良いミドルバック背とループ状のアームレストがホスピタリティ高い空間を演出するNestタイプ(中央右)と、低めのシェルにアームとなめらかに繋がるバックフレームがユニークなシルエットのAirタイプ(中央左)の2つのシートタイプを用意。薄く存在を感じさせないリクライニング機構は、背の押し返す力が適切に調節される体重感知式を新たに開発。価格：NESTタイプ116,050円～、AIRタイプ109,120円～。

内田洋行 お客様相談センター

URL◎<https://office.uchida.co.jp/>

電話◎0120-077-266



自然界をテーマにしたタイルカーペット
Color Sense

自然界には同じような色目に見えても、複数の色が混ざり合っている。山や空、果物、森林など、自然界に存在するさまざまなカラーをテーマに商品開発されたVOXFLOOR社のタイルカーペット「Color Sense (カラーセンス)」。ブルーやグリーン、オレンジ、イエロー、グレーなど6種類のカラー展開で、それぞれのカラーをベースにした8パターンのグラデーションがそろそろ(各パターン2枚入り/ケース)。写真はブルー系の「スカイハイ」と、オレンジ系の「マンゴタンゴ」を組み合わせた事例。サイズ:250×1000×h6mm、価格:10,780円/㎡。

アドヴァングループ

URL◎<https://www.advan.co.jp/>

電話◎(03) 3475-0194

さまざまな場に対応する機能的なオフィスチェア
Velo Chair

創業70周年を迎えたAndreu Worldの新作「Velo Chair」は、軽量かつ人間工学に基づいた設計で、今日のフレキシブルな働き方に対応する。コンパクトでありながら印象的なデザインは、オフィスユースはもちろん、ホームオフィス、コラボレーションスペースにも最適。背もたれは調整不要で動きに追従し、布張りメッシュの2タイプを用意する。デザインはBenjamin Hubert。サイズ:w695×d615×h1025(sh460)mm、価格:177,800円～。

アンドリューワールド

URL◎<https://andreuworld.com/>

電話◎(03) 6804-2966



混ざり合い、つなげる

Blending Furniture

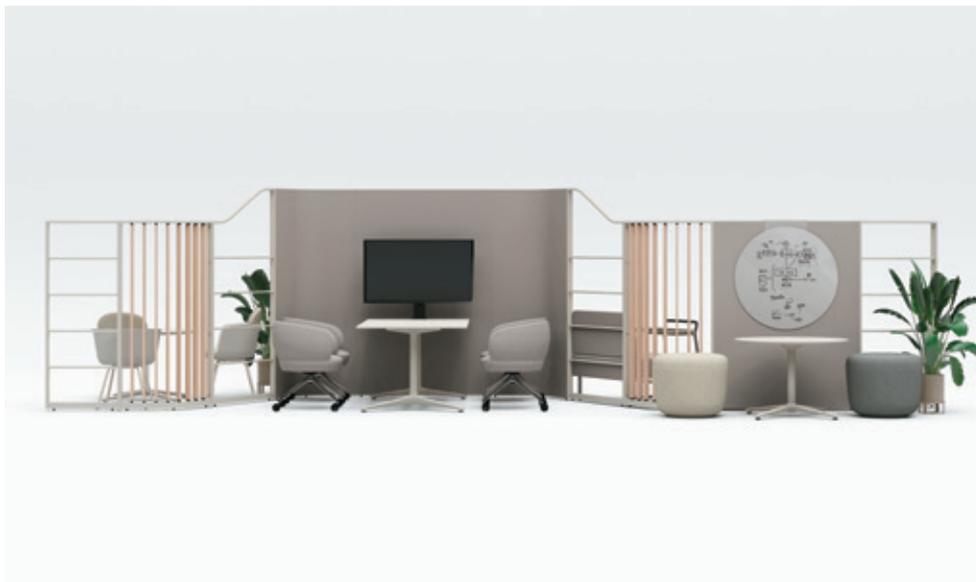
YAA

オフィスでのコミュニケーション推進が求められる中、オカムラはワーカー個々の居心地を尊重しながらも、互いの存在が自然に混ざり合い、つながっていくための“Blending Furniture”として「YAA (ヤア)」を発表した。人と人の関係性をデザインするための、やわらかな曲線と高低差で視線をコントロールし、落ち着いた環境と声をかけやすい環境を同時に生み出している。造作と違い、組み換えができるので、廃棄することなくオフィスの変化にも柔軟に対応する。

オカムラ

URL◎<https://www.okamura.co.jp/>

電話◎0120-81-9060



オフィス空間の壁・天井を
軽やかに彩る膜システム

リフォジュール スターシステム

フランス生まれの「リフォジュール スターシステム」は、特殊配合樹脂製の柔軟な膜と、アルミ製の軽量なフレームで構成された空間デザインシステム。照明や膜への印刷との組み合わせで、オフィスや店舗、公共施設などをクリエイティブな空間に仕上げる。多彩なバリエーションをそろえる柔軟な膜とフレキシブルなレールは、直線曲線・平面立体を問わず、デザイナーの自由な空間表現を可能にする。写真はオフィスの天井に照明として活用した事例。

リフォジュール

URL◎<https://www.refojoule.co.jp/>

電話◎(03) 5742-6331

オフィス内コミュニケーションを
促進するコーヒー体験

We Proudly Serve Starbucks コーヒープログラム

ネスレが提供する、オフィスでスターバックスのコーヒー体験ができると話題のコーヒープログラム。専用のフルオートのマシンを使い、スターバックスが厳選した高品質のアラビカ種コーヒー豆を使用して淹れたエスプレッソやカフェラテ、カプチーノなどの本格的でメニュー豊富なドリンクが味わえる。オフィスの休憩スペースなどに設置することで、コーヒーによるコミュニケーションが生まれ、豊かな時間を共有することができる。

ネスレ日本

URL◎<https://weproudlyservestarbucks.nestle.jp/>

Mail◎starbucks.wps@jp.nestle.com





実用性とデザイン性を兼ね備えたデスク KUUM Desk Table

清潔で美しい環境を維持できる、シンプルかつモダンなデスク「KUUM Desk Table」。粉体塗装で仕上げたスチール製の脚部は、細身ながら安定感のあるスタイリッシュなデザイン。空間を引き締めるブラックと、グレーホワイトの2色展開。天板は、熱や水、傷や汚れに強い、耐久性に優れたメラミン樹脂を採用し、汚れが付きにくく、汚れても簡単に拭き取れるため、手入れも簡単。耐薬品性も備えており、アルコールなどの薬品での拭き取りにも対応し、オフィスなど頻繁に使用する環境にも最適。また、天板には配線用の切り欠き加工が施されており、プレート付きで使いやすい設計。パソコンやデバイスの配線をすっきりと整理できるため、作業スペースを広く確保でき、快適な作業環境が実現する。

サイズ：w1200×d600×h725mm、
価格：39,600円。

ENEN

URL◎<https://enen-interior.com>

電話◎0120-82-5958



洗練された美しい佇まいで、上質な空間に寄り添う配線器具 SO-STYLE

直線を基調としたシンプルなデザインで、上質な空間との調和を目指した配線器具「SO-STYLE(ソー・スタイル)」。マットな質感で上品に仕上げられており、カラーはブラック、グレー、ホワイトの3色展開。多様な空間ニーズに応えるべく、さまざまなプレートサイズがそろそろ。ほかのコントローラーと並んで配置された時の美しさにも配慮した。高さ120mmを基本寸法とし、出代は6.8mmの薄さを実現。プレート部を壁面から少しだけ浮かすことで、多様な壁面仕上げにも美しく収まる。コンセントでは差し込み穴の形状もシンプルさと差し込みやすさを両立。また、スイッチではハンドルを板バネで支持することで、適度なクリック感を残しつつ、ソフトな感触と静音性を実現した。

パナソニック エレクトリックワークス社

URL◎https://www2.panasonic.biz/jp/densetsu/haisen/switch_concent/so_style/

電話◎(06) 6908-1131



サイズオーダーに加え

さまざまな組み合わせが可能な半円テーブル

THE TABLE / 半円

家具のサイズが自由に設定できるKANADEMONOの「THE TABLE / 半円」シリーズは、正円を中心でカットした半月型のフォルムが特徴。フラットな面を壁付けすることで、省スペースでありながら、使い勝手の良い場所を創造する。他の家具とのコーディネートも容易で、シェルフを両側から半円テーブルで挟み、ライブラリーの様にすることも。また角テーブルや壁付けソファなどと組み合わせるなど、シーンに合わせた使い方ができる。横幅100～160cmまでの1cm単位でのサイズオーダーが可能。天板はラバーウッド全4色、パイン、リノリウム全32色、突き板7種、無垢材5種の全49種。脚の形はTube PinとTriangle Pinの2種類に、カラーはブラック・ホワイト・ステンレスの3種類から選択可能。価格：42,000円～。

KANADEMONO

URL◎<https://kanademono.design/collections/half-round-table>

Mail◎press@kanademono.design





特定防火・防火設備に対応する防音引き戸 TSスライドSAT

東洋シャッターの「TS スライドSAT」は、ユニバーサルデザインを必要とするあらゆる施設に対応した、特定防火・防火設備に対応する防音引き戸。壁納まりと戸袋ボード納まりの2種類を用意し、壁厚40mmでT-2～T-4の防音性能、A-3の気密性能を実現。防火設備のほか、特定防火設備の基準をクリアしたタイプも用意し、CAS認定を取得済み。優れた防音性を発揮しながら、防火性やデザイン性、採光性にも優れた窓付きタイプも用意（特定防火設備は除く）。室内の様子が確認できるためオフィスの会議室や教育施設にも最適。サイズ：鋼製防音引き戸w700～1300×h1800～2400mm、軽量防音引き戸w700～1100×h1800～2400mm、軽量防音引き戸（窓付き）w700～1100×h1800～2100mm。

東洋シャッター

URL◎<https://www.toyo-shutter.co.jp/>

電話◎ (06) 4705-2110

すっきりとスリムなリアLED照明

ESSENCE LINEAR

アメリカの照明メーカー、Visual Comfort & Co.groupのモダン照明コレクションTECH LIGHTINGの「ESSENCE LINEAR」シリーズ。究極のモダンミニマリズムを体現する、すっきりとした水平ラインが特徴。美しい室内空間を損なわずに、ドラマチックな印象を与える。会議室のテーブルライトやダイニングルームライト、キッチンアイランドライトなど、さまざまなシーンに適應する。真鍮色とクローム色の2色展開。サイズ：w1270×d20×h20mm。

EL JEWEL

URL◎<https://eljewel-chandelier.com/>

電話◎ (03) 5419-7751



軽量でスタッキング可能な木製スツール

KAMOME STOOL

家具の産地である福岡県大川を拠点とする家具メーカー、モーブルが取り扱う家具ブランド「IKASAS」より、カモメが翼を広げたようなフォルムが軽快な印象を与える木製スツール。2.3kgと軽量で、スタッキング機能も備えており、フリーアドレスのオフィスや社内イベント時などの柔軟な使い方に対応する。製造においては高度な二次元の成形合板技術により、使用する資源と構成部材をできる限り減らし、環境負荷の軽減と軽量化を同時に実現した。GOOD DESIGN AWARD 2018とiF DESIGN AWARD 2019を受賞。4色展開。サイズ：w440×d390×h445mm。価格：35,200円。

モーブル

URL◎<https://ikasas.jp/product/ikskm-01bc>

電話◎ (0944) 88-1955

